

埼玉親善大使レポート

氏名：荒井 喬介

留学先：マカオ

1. 埼玉県をPRした事柄について

寮で開催された国際学生パーティーの場を活用し、埼玉県の魅力を紹介する機会を得ました。具体的には、県の特産品である彩果の宝石や草加せんべい、狭山茶をこだわりポイントの説明とともに参加者に提供しました。特に狭山茶は、中国を中心に茶文化が深く根付くマカオ現地の学生にもその味わいに高い関心をもってもらうことができました。また、彩果の宝石は果実の風味が好評で、並べられた様々なお菓子の中でも特に早くなくなりました。加えて、中国やマカオで広く親しまれているアニメ『クレヨンしんちゃん』の舞台が埼玉県であることを紹介すると、多くの方からぜひ行ってみたいとの声をいただき、県への興味を引き出すことができました。今後も、個人的に好きな川越や、桜の時期には上尾の丸山公園など、具体的な観光スポットを紹介しながら、埼玉への訪問を促していきたいと考えています。

2. 勉学に関すること

マカオ大学では、財務管理論、国際マーケティング、ゲーミングマネジメント、消費者行動論など、多岐にわたる科目を履修しています。特に財務系やデータ分析の科目では、留学前に培ったデータサイエンスの知識や、ITパスポート、簿記、統計検定での学習経験が大いに役立っており、英語での専門用語や概念の理解に挑戦しながらも、確かな手応えを感じています。マカオは統合リゾートによる観光業がとても盛んなため、今学期はIR系の科目の取得にも挑戦をしています。学業面では、予習・復習の時間確保に苦労する場面もありますが、自身の弱点と向き合い、毎日のリサーチと学習の積み重ねを今後も頑張っていきたいと思います。

3. 現地での生活について

マカオはポルトガルの植民地であった歴史的背景から、中華文化とポルトガル文化が見事に融合した独特の風土を持っています。旧市街の石畳やコロニアル様式の建築物、エッグタルトをはじめとする葡式料理などがある一方、マレーシアやタイ、中華や日本料理店も多く、街の至る所で東西文化の交わりを感じられます。また、ポルトガル語圏の文化を祝う祭りや香港・中国・マカオそれぞれの国が参加するハンドメイドマーケット、マカオマラソンなどのイベントが盛んに開催され、その参加を通して多文化性を体感しています。生活面では、寮内の勉強部屋、ジム、共有パントリーなどの充実した施設を活用しながら、自炊や健康管理にも励んでいます。特に自炊を通じては、マカオにも進出している日本の食品店「ドンキホーテ」の存在が心強く、日本食を作って現地の友人に振る舞うことで、日本の食文化への関心の高さを実感するとともに、新たな交流の機会につながっています。人々は全般的に温かくオープンで、留学生活開始直後から食事やイベント、旅行に誘ってくれたり、誕生日を祝って

くれたりし、言葉や文化の壁を越えた交流が日々の喜びとなっています。



Food Festival :
抹茶ラテやお団子を提供しました！



ポルトガル語圏の国々が集まる祭り :
モザンビークの方々のダンスステージ！



中華料理（飲茶） :
茶を飲みながら「点心」と呼ばれる軽食を楽しみました！